

「きらみずき」の技術習得による 収量・品質確保

大津・南部農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

水稻新品種「きらみずき」の栽培は、令和 5 年産は管内で 13 名が 9.7ha で栽培されました。収量は栽培者間の差がありますが、生育後半の栄養不足が発生したため、平均で 347kg/10a と低く、品質面でも一等米比率約 70%と収量・品質の向上が求められています。そこで、管内栽培者を対象として「きらみずき」の収量・品質の確保ができるように栽培技術の支援を行いました。

【普及活動の内容】

(1)栽培の実証支援

JAレーク滋賀と連携し、管内 2 か所に「きらみずき」の生育後半の栄養不足の改善を図るための施肥改善実証ほを設置しました。

(2)栽培者への栽培技術支援

令和 6 年産では管内各地で栽培者 72 名、面積 44.4ha で栽培されており、JA レーク滋賀と連携し、ほ場管理指導を行うとともに実証ほデータを基に還元害対策、中干し、穂肥施用や斑点米カメムシの耕種的防除等、生育ステージに応じた情報を発信しました。

(3)令和 7 年産に向けた対策

作付推進説明会を開催し、栽培記録やアンケート結果から見えた令和 6 年産の改善点を栽培者へ説明するとともに、令和 7 年度の作付推進を図りました。

【普及活動の成果】

令和 6 年産の「きらみずき」の平均収量は 401kg/10a(203～567kg/10a)、一等米比率は 79.3%となり、前年より収量・品質は向上しました。しかし、雑草の多発や斑点米カメムシ類による被害粒の多発、穂いもち病の発生による減収も見られ、栽培者間の差は大きくなりました。

今後、他地域の状況も参考に対策を整理し、収量・品質向上に向けて支援を行います。



写真1 適期穂肥施用実施



写真2 作付推進説明会

◎対象者の意見

今年は収量も約 480kg/10a と安定して取れ、品質も良く、全量一等が取れました。「きらみずき」は食味評価も高いので、来年も取り組みたいです。（実証ほ生産者）